

# 認知症ケアパスを普及する上での課題・問題

## 認知症

### 行政

- ・一人暮らしの認知症の方はどのように生活されているか把握することが必要
- ・独居の方への普及どうやる？

### 運動

- ・運動に興味がない、集まりが苦手な人の運動はどうする？

### 本人

- ・恥ずかしいという思いがあり、認められない
- ・認知症になっているか知りたい
- ・認めたくない、アドバイスしてくれた人に怒る

### 家族

- ・認知症への理解不足
- ・「うちのは認知症じゃない。性格だ」と家族が理解なく、認められない
- ・周りに助けを求めない
- ・家族が抱え込んでいる
- ・家族の負担を軽減できるものない、知らない
- ・受け入れが悪い
- ・介護負担が大きい
- ・支える家族の疲労、不満

### 交通

- ・送迎がないため集まらない
- ・集いに人が集まらない
- ・交通の便が悪い
- ・移動手段の不足

### 地域

- ・対応の仕方が分からない
- ・集いの回数が少ない
- ・個人情報の壁
- ・見守り方法について、地域の人はおかしいと思ってもケアの利用や治療につなげるには時間がかかる
- ・独居、普段は地域の人が見るようにしている。行政へ言うのは遠慮する
- ・地域の力は強いが市内になると弱い
- ・地域による温度差がある

### 認知症安心ガイドブック

- ・存在自体知らない人が多い
- ・ガイドブックは一般の人にはわかりにくい
- ・名前から内容が分かり辛い

### 医療・介護サービス

- ・困っているかわからないのでアドバイスにくい
- ・普及する項にはサービス提供者も高齢化？担い手どこから連れてくる？
- ・サービスが足りていない
- ・認知症を支えるサービスの不足
- ・人材不足
- ・認知症の専門医にかかるのが遅れる
- ・受診中の付き添い人がいない
- ・長期入院で認知低下する人もいる。病院で良くなると勘違いしている人がいる
- ・高齢者のみ世帯で認知症が出てきた人を介護するのは困難
- ・認知症の患者様の一般病棟での対応は難しい
- ・全ての集落で同じレベルのサービスを提供出来ますか？

PR不足

もやもや

ボランティア



# 認知症ケアパスの普及方法

キャッチコピー

あなたもわたしもせ  
わあ～ねえ～

## 認知症ケアパスの活用方法

- ・学校等で講座を開く
- ・このガイドブックや認知症に関するポスター等を薬局や病院、事業所内に掲示して、相談しやすい状況を作る
- ・院内にケアパスの表を提示する
- ・地域の小さい会で説明しながら普及していく
- ・各事業所の勉強会で使用
- ・未来を担う子供たちや若い世代にガイドブックを説明する機会を設ける
- ・病気がどうなっていくかなど説明しながら配る
- ・一般の方向けに簡単な内容の物を作る
- ・こころの医療新見の先生に使うしてもらう

## 地域

- ・地域の代表に理解をもらう
- ・地域のお店に協力を依頼する
- ・見て見ぬふりをせず、声掛けや公共のものを利用するよう教えてあげる
- ・老人クラブとかに認知症の相談出来る場所を教えてあげる
- ・地域の方と一緒に地域で出来る事、考えていく
- ・地域の方が認知症予防に取り組めるような働きかけ
- ・民生委員会や小地域ケア会議で勉強してもらう
- ・サロンの立ち上げ
- ・地域住民の認知症の理解を深めていただき情報を共有し、安否確認、見守りが出来る地域をつくる
- ・認知症サポーターを養成する

## 介護予防

- ・適度な運動

## 行政

- ・認知症のチェックを年齢を決めてするようになる
- ・65歳以上の人を定期的にチェックをする
- ・チェックリストが返却されていない人へは訪問する
- ・脳ドック70歳以上無料にする
- ・哲西のようなコミュニティケアを作る
- ・小地域ごとにサロンや認知症カフェを作る
- ・総合健診のように、認知症検診があつたらよい
- ・一人暮らしの認知症の方がどのように生活されているか把握する
- ・地域に住んでいる高齢者の心身状況の把握

## 認知症ケアパスの配布場所

- ・配布しているカタログにそっとはさんで配る
- ・交流イベントなど、地域の会合、活動時に配る
- ・市報に折り込む
- ・PTA、婦人会、警察、学校
- ・若い方がいる家庭
- ・愛育、福祉、民生委員
- ・車の販売店、高齢者の利用するお店
- ・専門職の事業所
- ・利用者さん家族
- ・目につくところ、待ち時間のある場所
- ・サンパーク、プラザ、Aコープ
- ・グループホーム
- ・病院、薬局待合室
- ・バス停、バスの中
- ・駅・銀行、郵便局
- ・訪問系サービス
- ・介護者の集い
- ・病院で認知症と診断された人に配布

## 情報提供



- ・認知症は脳の病気で、誰もがかかる可能性がある特別な病気ではないことを伝える
- ・窓口を教えてあげる。包括支援センターを伝えてあげる
- ・認知症になっても安心して暮らせるようにサービスの説明
- ・認知症になっても大丈夫と思える情報提供
- ・認知になったら、薬やサポート体制があることを先に伝える

## 医療・介護従事者

- ・抗認知症薬処方時にガイドブックを渡す
- ・連携を密にする
- ・支援の輪を広げて行く
- ・数で勝負
- ・職員の研修で活用する
- ・定期的にCT
- ・グループホームの地域の方との交流行事で発信していく
- ・訪問系サービスの方が説明する
- ・窓口等でゆっくり説明する。無理なら包括支援センターやケアマネ等につなげる

## 普及啓発

- ・市民のための講演会
- ・出張相談窓口を設ける
- ・キョラバンメイトがんばる
- ・病院や市役所にわかりやすいポスターを設置
- ・新聞等に継続的に広告を出す
- ・チャンネルで寸劇などで具体的に内容を説明する
- ・市報にチェックリストを載せる
- ・介護が必要となりそうな両親を抱えている世代への普及を図る
- ・新見放送の商業で認知症チェックテスト、心当たりの方は主治医へ相談

ポスター

## 早期発見

チェックシート

- ・認知症スクリーニング検査の実施
- ・簡単なチェックシートをお店や、窓口に置き、まずはチェックシートのみをもらう
- ・健康診断時みんなでするスクリーニング
- ・運転免許センター、病院待ち時間にチェックする

## 集い

- ・地域の中に集まれる場を作る
- ・認知症カフェ、いきいきサロンを増やす
- ・健康講座の集い
- ・グランドゴルフ、ゲートボールの大会

## 認知症ケアパスの改善

- ・専門職が使用するにしても、説明書がほしい
- ・名前を認知症安心ガイドブック⇒安心・安全ガイドブック
- ・ガイドブック 一般用、専門用にする
- ・配った人を傷つけないよう注意して作る

## 知識を深める

- ・自分が理解して、他の人に説明出来るようになる

## 普及啓発

- ・若い世代への普及啓発も大切

## 窓口

- ・窓口をわかりやすくする
- ・気軽に相談できる窓口が欲しい
- ・一般の方はどの時点でどこに相談したらいいかわからないので紹介することが必要

## 支援の輪

- ・関わっている人々がつなげていく

## 認知症

- ・金融機関の人からの発見が多い
- ・認知の人は家族に怒る。外からの関わりが大切
- ・認知症を解りやすい言葉に置き換える
- ・医師や薬剤師など専門職から言ってもらおうと納得する人もいる
- ・悪い事ばかりでなく、良い情報も伝える

## 集い

- ・認知症の会には行かないけれど、地域の集いには行く人がいる
- ・介護タクシーが増えてほしい
- ・孤立している人が認知症になっているのでは？



## 早期発見

- ・地道に一人一人あてはめて行くのほどか？

## 受け入れやすいものが必要では？

- ・人を引き寄せるキャッチーな言葉
- ・認知症に対してのキャッチコピーがあり、普及出来ればいい

## 認知症チェックシート

- ・気楽にチェック出来なければ敷居が高い